



# 探訪 長門のい（おみ） ②1

## 湯本温泉を詠む 阿部宗義句碑

世々照るや

月すみよしの

温泉の里

明治乙酉 七十一齡

季秋 深耕亭有秋謹誌



湯本温泉公衆浴場うらの丘に、「住吉明神」を祭る住吉神社と、大寧寺末庵の興阿寺が並んで建っている。温泉街を見下ろす境内の一角、恵比須さんの石祠のそばにこの句碑がある。

句の作者阿部宗義（号、深耕亭有秋）の家系は、大内氏の流れをくむ問田氏の支族。永禄年間（1558―70）に安弘が母方

の姓を名乗って大津郡三見（現在、萩市）に隠棲、毘沙門天を守って安住したという。子孫は

代々庄屋を務め、宗義はその12代目。句碑を建立したのは明治18年（乙酉、1885）9月（季秋）、宗義71歳のときである。湯本温泉の起りについては、次のような伝説がある。

——大寧寺三世・定庵和尚（1373―1432）の時代。ある月の明るい夜、定庵が寺の周りを散歩していると、石の上で座禅を組んでいる白髪の老翁に出会った。名前を聞くと老翁は、「松風の声のうちなるかくれ家はむかしも今も住よしの神」と歌でこたえた。

老翁は長門一の宮（下関）の住吉大明神であった。明神はその後名僧定庵を師として仏道を修めた。明神は師の恩に報いるため、この地に霊泉を湧出させた。

明神の報恩に感激した定庵は、この丘に住吉明神を祭った——

（正）



（寄稿・長門市郷土文化研究会）

### あなたなら、こんな時どうしますか？

突然、あなたの目の前で人が倒れ、その人に意識がなかったら、あなたは どう しますか。救急車が到着するまでに人工呼吸や心臓マッサージ等の手当を素早く 行えば救命率は高まります。

（救命のポイント）

- ①意識なし～気道確保
- ②呼吸なし～人工呼吸法
- ③脈拍なし～心臓マッサージ法

※救命講習をご希望の方はお気軽にご連絡ください。



火災時の問い合わせは

☎ 22-1414

長門地区消防本部・中央消防署

☎ 22-3111